



駅でいいましょう

南口駅前広場のみどり



もくじ

1. 高藏寺のみどりを知る

- i 山と川がでる場所 p. 5
- ii 駅周辺のさまざまな「みどり」 p. 7

2. 駅前広場におけるみどりの取り組み

- iii 高藏寺のちいさな植物園 p.15
- iv タネプロジェクト p.19
- v お引っ越しプロジェクト p.23

| 連載 | 駅の顔 p.27



1. 高蔵寺の「みどり」を知る

くらしのすぐ近くを川が流れ、山に抱かれた「みどり」豊かなまち、高蔵寺。では駅の周りは…となると、住宅やビルが建ち並び、日常の中で「みどり」を感じるのは遠くに見える景色ぐらいかもしれません。駅前広場は日々たくさんの人が往き来します。だからこそ、自然の「みどり」が豊かに迎えてくれるオアシスが求められます。

さて、一言に「みどり」といってもその植生・かたちは実にさまざま。森のように多種多様な木々で構成され、森林浴ができる「みどり」もあれば、寝転んだりかけっこができる芝生のような「みどり」など、環境や人との関わり方も多様です。

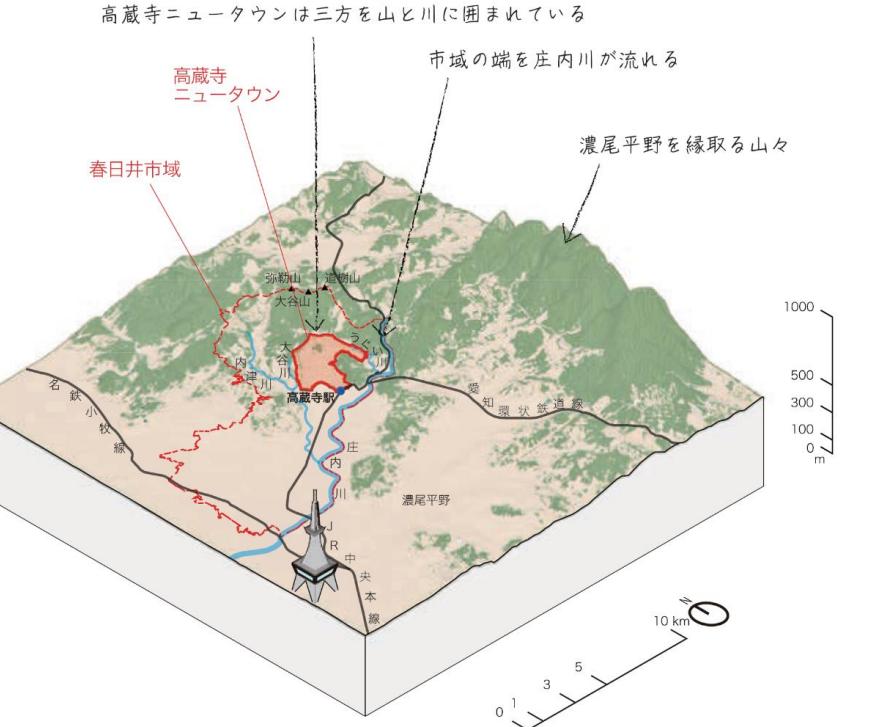
高蔵寺駅南口駅前広場では、ほっと一息つける場所、人々の日常に寄り添う「みどり」の計画を推し進めています。ささやかな植栽の中にもひとつひとつに名前があり、季節ごとの変化があり、そしてその場に植えられるまでのさまざまなストーリーがあります。

このコンセプトブックでは、高蔵寺の「みどり」について知っていたらしく同時に、高蔵寺駅南口駅前広場に息づく「みどり」のさまざまなストーリーをご紹介します。何気なく目にしている「みどり」について知り、広場の楽しみ方のひとつとしてより身近に感じていただければ幸いです。

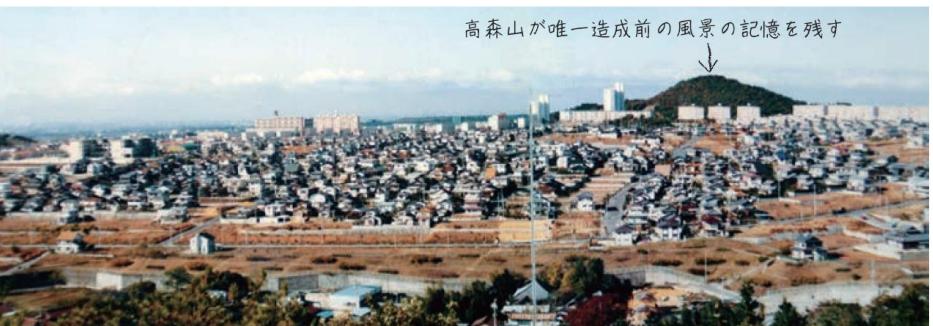
山と川がでう場所

駅のホームから高蔵寺ニュータウン側右手に見える“もりもり”した山、『高座山』。一見すると特に変哲もないこの山も、目を凝らしてみると山頂、山腹、山裾で生えている植物が違うということに気づきます。山の西側には『高蔵林特別緑地保全地区』が広がる「みどり」豊かな森もあります。

一方、駅南側の坂を下っていくと、『庄内川』がゆったりと流れています。大きな河原、風が通り抜けるはらっぱ。昨今の市街地では見られなくなった豊かな自然が広がっているのは、高蔵寺が濃尾平野の端に位置し、山もあれば川もあるといった地形的条件が大きく影響しています。



ぼこぼことした小さな山々が連なり、森林も多かったことがわかる

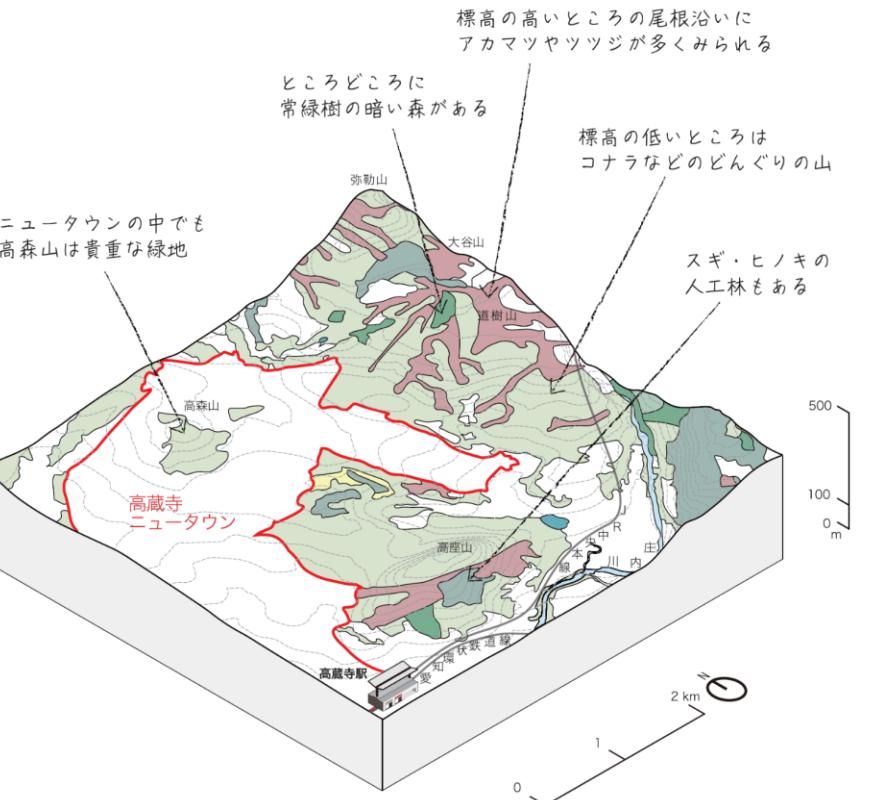


上段写真とほぼ同じ場所から高蔵寺ニュータウン方面を撮影(1986年頃)
(出典:樹林舎『春日井・小牧の昭和』より 撮影=加藤鏡氏)

駅周辺のさまざまな「みどり」

場所ごとに異なる「みどり」を楽しむことのできる高藏寺の森。一様に見える「みどり」も、よく観察してみると個性豊か。マツやツツジを中心育つ森もあれば、どんぐりがたくさん落ちる森もあります。

昔からあまり手の加わっていない『高座山』の森には、アラカシをはじめとした常緑樹林>が広がります。一方、比較的新しいニュータウンにある『高森山』やその周辺の森には、コナラなどの落葉樹>中心の雑木林が広がります。また、尾根付近にはマツとその足元には春に薄紫色の花を咲かせるミツバツツジなどが生え、印象的な景観を形成しています。



モチツツジ・アカマツ群集



アカメガシワ・カラスザンショウ群落



ケネザサ・コナラ群集



シイ・カシ二次林
アラカシ群落



カナメモチ・コジイ群集



スギ・ヒノキ・サワラ植林

高さ 12~25m の常緑針葉樹林。森のてっぺんはほとんどがアカマツ。足元にはミツバツツジが生え、春には赤紫色の花を咲かせる。高座山の山頂付近にはハイネズなども。

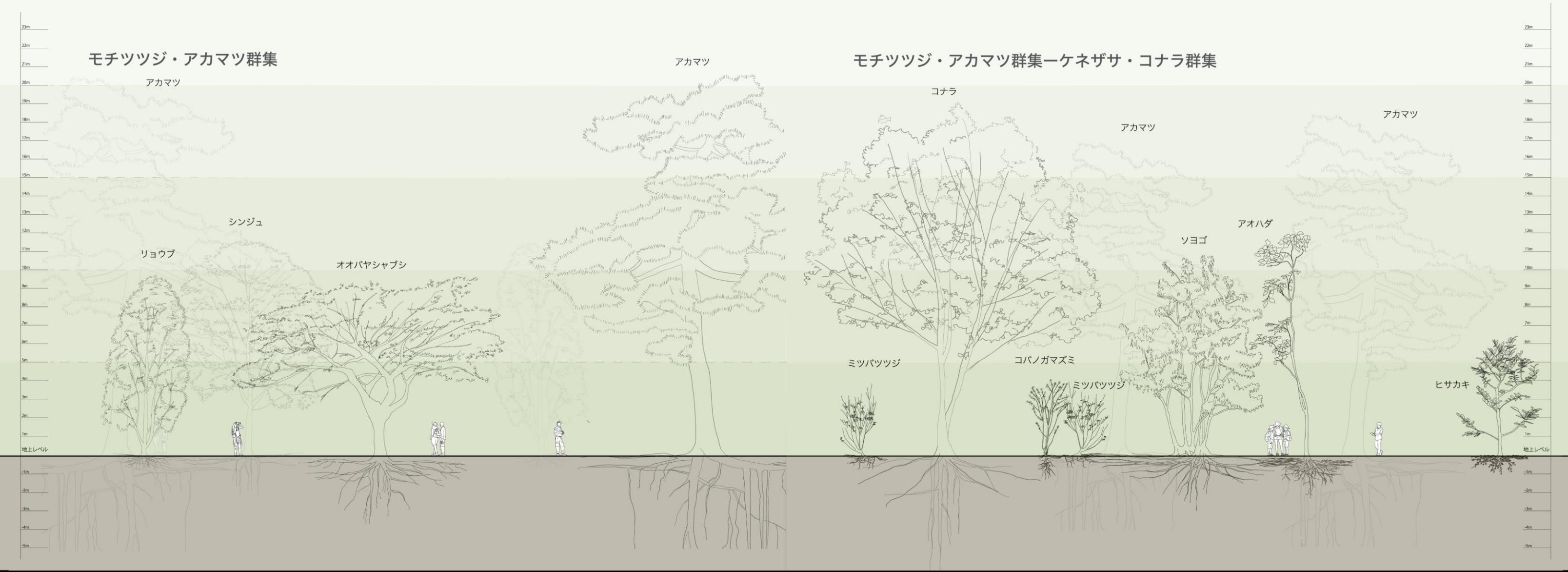
高さ 2~5m の落葉広葉樹林。アカメガシワやヌルデが目立つ。エノキ、ムクノキ、オニグルミ、ヤマグワと混ざることも。比較的乾燥した河川敷でみられる。

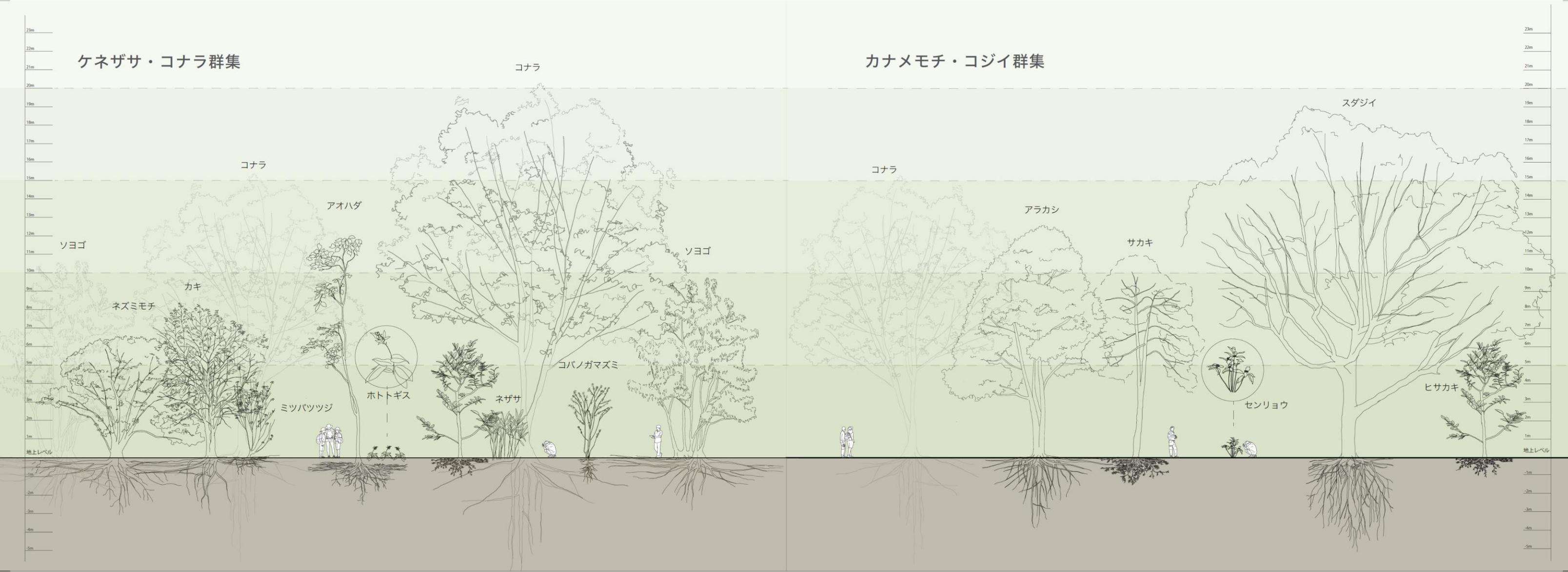
高さ 12~20m のどんぐりがなるコナラやアベマキを中心とした落葉広葉樹林。落葉低木のほかヨゴヘヒカキなどの常緑低木も混じり、たくさんの種数を見ることができる。

高さ 13~16m のどんぐりがなるアラカシを中心とする常緑広葉樹林。多種類の常緑高木が混じり、足元にはセンリョウ、ジャノヒゲ、マンリョウなどが生える。

高さ 13~16m の常緑広葉樹林。高木はスダジイまたはコジイがみられ、その下にモチノキ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ネズミモチ、アラカシなどが現れる。

スギまたはヒノキ、サワラなどの人工的に植林した樹林。間伐が行われていない植栽密度が高い森では暗く、植林した木々以外ほとんど植物が生えていない。



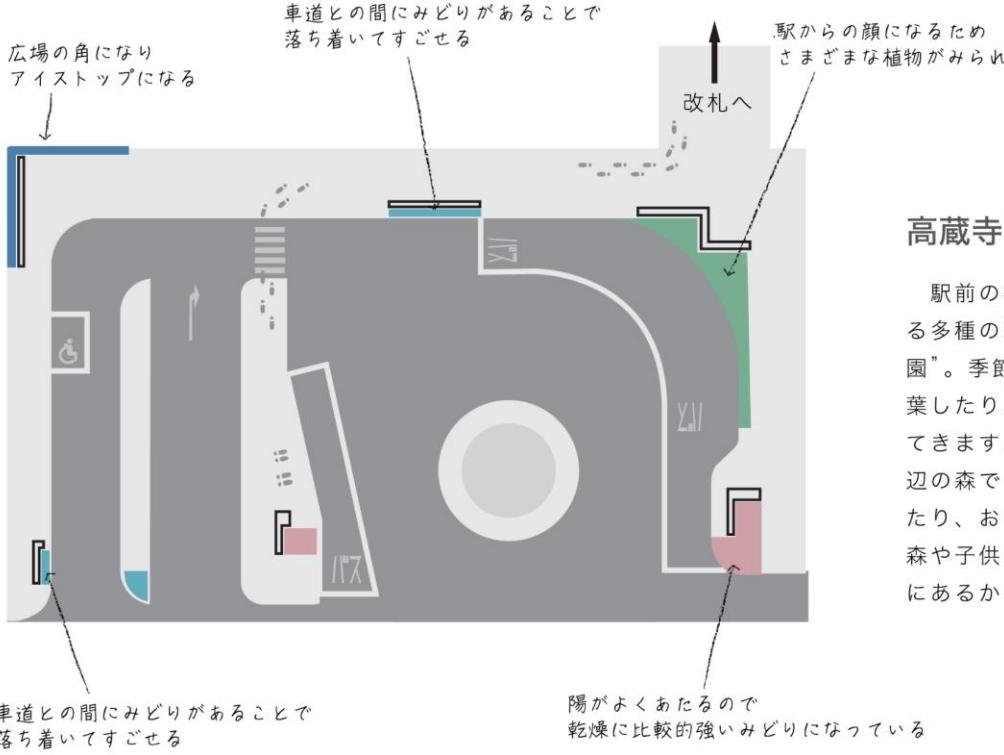




2. 駅前広場におけるみどりの取り組み

駅前広場を整備するにあたり、高蔵寺で育まれてきた豊かな自然環境とつながりがもてるような「みどり」を考えました。そこで、地域に生育している植物を採集して植栽に生かし、“ちいさな植物園”をつくろう！と計画しました。

しかも単に購入をした植物の苗を集めることではなく、東海地方…できれば地元高蔵寺産にこだわった末、タネから育てることに。さらに大きな木や草は、地域の森からすこしお裾分けしていただきました。そうしたプロセスを重ねて、「高蔵寺駅にしかない高蔵寺ならではのみどり」が完成することとなりました。



高藏寺のちいさな植物園

駅前の花壇は、高藏寺の森で見られる多種の草花が咲く“ちいさな植物園”。季節ごとに花や実をつけたり紅葉したり、高藏寺の森の魅力が伝わってきます。植栽の一部は、高藏寺駅周辺の森で目にした植物をタネから育てたり、お引っ越しさせたもの。近くの森や子供の頃に見たあの植物も、ここにあるかも!?ぜひ探してみては。

モチツツジ・アカマツ群集 林床植生を中心とした植栽帯

- ・ヒサカキ
- ・サカキ
- ・センリョウ
- ・シャシャンボ
- ・ヤツデ
- ・モチツツジ

- ・コバノミツバツツジ
- ・コバノガマズミ
- ・ムラサキシキブ
- ・ホトトギス
- ・ナキリスゲ
- ・ナガバジャノヒゲ

- ・ヤブラン
- ・ヤブコウジ
- ・シシガシラ
- ・ベニシダ
- ・ツワブキ
- ・マンリョウ

- ・ショウジョウバカマ
- ・チカラシバ

アラカシ群落 林床植生を中心とした植栽帯

- ・ヒサカキ
- ・サカキ
- ・イヌツゲ
- ・ミヤマシキミ
- ・センリョウ
- ・シャシャンボ

- ・モチツツジ
- ・コバノミツバツツジ
- ・コバノガマズミ
- ・ムラサキシキブ
- ・ホトトギス
- ・ナキリスゲ

- ・ジャノヒゲ
- ・ヤブラン
- ・ヤブコウジ
- ・シシガシラ
- ・ベニシダ
- ・ツワブキ

- ・マンリョウ
- ・ショウジョウバカマ
- ・チカラシバ
- ・ハイネズ
- ・フユイチゴ

カナメモチ・コジイ群集 林床植生を中心とした植栽帯

- ・ヒサカキ
- ・シャシャンボ
- ・サカキ
- ・ムラサキシキブ
- ・モチツツジ
- ・ヤツデ

- ・キヅタ
- ・ティカカズラ
- ・ミツバアケビ
- ・ビナンカズラ

壁面緑化

ここでみられる植物たち



タネプロジェクト

高蔵寺生まれ高蔵寺育ちの草花をタネから育てました。駅周辺の森でみられる約20種類の草花を育てています。

1 タネを集める



高蔵林特別緑地保全地区や
高森山などでタネを採取

2 育てる



採取したタネは果肉などを
取り除いてから土に種まき

3 植える



1~2年程度育てた苗を幼稚園児と花壇に植え付け



高蔵寺のタネ

大谷山産



高森山産



黒い実をつぶすと
複数のタネがでてくる



高座山産



赤い皮をとると
白い実がでてくる

実もタネも小さい



ミヤマシキミ



ソヨゴ



サカキ



イヌツゲ



マンリョウ



ヒサカキ



ガマズミ



センリョウ

お引っ越しプロジェクト

「ドングリ作戦」によって復活した『高森山』から高木 6 本、『高座山』からも小さな草木をお裾分けいただきました。

1 選ぶ



森の中から生態系に影響ない範囲で移植木を選定する

2 運ぶ



木を掘り取り根鉢に麻布を巻いて運搬する

3 植える



駅前広場の花壇に植え穴を掘り植え付ける



岩盤が浅く掘り取るのは苦戦

お引っ越ししてきた「なかま」たち

高森山産



高座山産



|連載| 駅のかお

今回は、南口駅前広場の植樹をお手伝いしていただいた高藏寺幼稚園の園児のみなさん、保護者の方々、先生方からお話を伺いました。



子どもと一緒によく歩く場所なので、
また見にきたい。
(保護者の方より)



見たことがない植物を
植えられて楽しかった



自分たちが植えたものが
大きくなっていくのが樂しみ
(先生より)

子ども達が樂んでいる姿を
みられてよかったです
(保護者の方より)



駅あいましょう2
南口駅前広場のみどり
発行元 春日井市

企画 高蔵寺駅周辺デザインチーム / 高蔵寺まちづくり株式会社
編集 名古屋市立大学芸術工学部大野暁彦研究室
印刷 高蔵寺まちづくり株式会社
写真 高蔵寺駅周辺デザインチーム
協力
Special Thanks 名古屋市立大学芸術工学部
加藤璃子・土橋侑生・羽田野水紀・宮脇由奈
高蔵寺幼稚園
テキスト編集 岩田舞海

WEB版もご覧いただけます。
発行 2023年8月
第1刷発行
FREE

本誌に掲載されている情報は2023年5月時点のものです。
今後植物の生育状況によっては植栽されている種などが変わるものもありますので、あらかじめご了承ください。

参考文献
・環境省自然環境局 生物多様性センター 自然環境調査 Web-GIS
・最新樹木根系図説 芦住昇 著 誠文堂新光社 2010